

## 医学系研究に関する情報の公開について

研究機関名*	独立行政法人労働者健康安全機構 大阪労災病院
研究課題名*	内視鏡的逆行性膵胆管造影法における透視条件と検査の有効性・安全性に関する検討
所属科*	消化器内科
研究責任者*	法水 淳
研究実施期間	開始 西暦 2022年 10月 日 ~ 終了 西暦 2026年 3月 31日 (予定)
対象疾患 (予定症例数)	胆道系疾患・膵疾患 (約400 症例)
研究対象となる治療・手術・検査の時期	自 西暦 2022年 10月 日 ~ 至 西暦 2023年 10月 日
研究概要*	<p>【背景】内視鏡的逆行性膵胆管造影法 (ERCP) は、胆管や膵管の狭窄や閉塞、石や腫瘍などの病変を診断・治療するために用いられる内視鏡検査である。しかし、この検査ではX線透視装置を使用するため、患者や医療従事者は放射線に被曝するリスクがある。放射線被曝は、皮膚や水晶体の障害や癌の発生などの健康影響を引き起こす可能性があり、特に水晶体被曝限度の改定に伴い、医療従事者の被曝管理が重要となっている。</p> <p>そこで、ERCPにおける被曝低減について多く議論が為されているが、透視条件などについての決まった見解は無い。透視条件とは、X線の強さや時間、距離、角度などを指し、これらを変えることで被曝量を変化させることができる。しかし、透視条件を変えると画質や手技の難易度も変わるため、最適なバランスを見つけるのは容易ではない。</p> <p>【目的】 ERCPにおける透視条件と被曝量、検査の有効性・安全性に関して検討する。</p> <p>【方法】当院で2022年10月～2023年10月の間に、ERCPが施行された胆道系疾患、膵疾患の患者約400例を対象に、既存の診療情報 (血液検査、画像検査、内視鏡治療内容)、透視条件、臨床経過の閲覧・評価を行い、内視鏡的逆行性膵胆管造影法における透視条件と検査の有効性・安全性に関して検討する。</p>

別紙第2号様式

倫理的配慮・個人情報の保護の方法について*	連結可能匿名化を行う。対応表はそれぞれの部署（施設・研究室）で厳重に保管する。本研究で得られたデータを当院外へ提供する際には対応表は提供せず、連結可能匿名化されたデータのみを提供する。学会や論文等で研究成果を発表する場合も、個人を特定できる情報を明らかにすることは決して行わない。
研究の問い合わせ先*	大阪労災病院 消化器内科 法水 淳